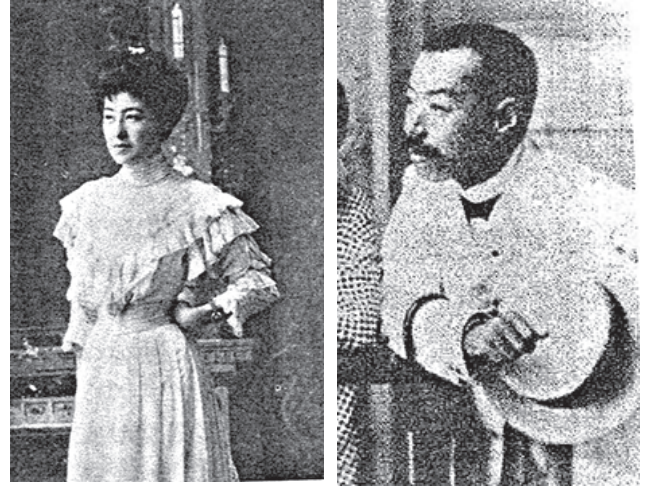


茅ヶ崎と“音貞”

原田 信作

はじめに

“音貞”とは、川上音二郎とその妻貞奴のカップルのことをいい、音二郎は、九州博多出身で、「オッペケペー節」にて一世を風靡し、書生芝居から翻訳劇・翻案劇など新演劇を経て「新派の祖」と称されるに至る演劇人であり、その妻で芸者上がりの貞奴は「日本女優第一号」とされている。茅ヶ崎とのかかわりを含めて、二人の生涯をたどり、近代日本演劇史の一端を見ることとする。



生い立ちから大阪・東京へ

文久4年(1864)1月1日、音二郎は、九州博多にて父専蔵・母ヒサの長男として生まれた。明治10年(1877)、14歳の時、折り合いの悪かった継母から逃れて家出。汽船に潜り込んで大阪へ。つづいて東京へ。

明治11年(1878)、芝増上寺の小僧をしているうちに、毎朝芝公園を散歩する福沢諭吉と出会い、慶應義塾の塾僕(塾生ではなく、書生として雑用を務めながら時に受講を許される)として拾われる。

明治15年(1882)、立憲帝政党(福地源一郎(桜痴))が発足し、音二郎は黨員となって党新聞発行を担当する。政界批判の過激な内容を書き一時投獄される。

明治16年(1883)、自由党に入党し「自由童子」と称して新聞発行に携わる。その後も大阪・京都を中心に政府攻撃の演説や新聞発行で度々検挙される。京都では「演劇場」で「演説」とも「演劇」ともとれる博多や大阪の「俄」をまじえて聴衆を集めた。これより演劇に興味を持ち始める。

一方、貞奴は、明治4年(1871)7月18日、東京日本橋にて父小山久次郎・母タカの間にも生まれる。本名小山貞。実家は貧しいため、明治7年(1874)日本橋葎町の芸者置屋濱田屋の養女になり、明治16年(1883)13歳で小奴としてお座敷に出る。

書生芝居・壮士芝居から新演劇へ

明治20年(1887)、音二郎は、一座を率いて京都「坂井座」で歌舞伎の中村宗十郎の一座とともに「改良演劇」と銘打って興行。

明治21年(1888)、噺家二世曾呂利新左衛門の門弟となり「浮世亭〇〇」と称す。大阪の

寄席で改良落語を口演、「オッペケペー節」を歌い政治と世情を風刺して大好評を博す。一世を風靡する始まりとなる。

明治22年(1889)、故郷博多に凱旋。「オッペケペー節」を披露して好評。

明治23年(1890)、「書生芝居」の一座を結成して横浜「蔦座」を皮切りに東京芝「開盛座」など巡業。一方の小奴は、伊藤博文などお歴々の鼻屑を受けて、明治20年17歳で一本になって芸者「奴」としてのお披露目があった。そして養母のすすめで音二郎の書生芝居を初めて観る。

明治24年(1891)、音二郎は、「壮士芝居」(壮士とは当時自由民権思想を唱え歩いた血気盛んな者をいう)を旗揚げし、東京「中村座」にて「板垣君遭難実記」を上演。東京でもオッペケペー節が大流行。

明治維新と近代化の波

ここで少し時計の針を戻して維新後の我が国演劇事情を振り返ってみる。

明治維新による近代化は政治面のみならず文化面でも大きな波となって押し寄せてきた。近代的な西洋文化の取入れとそれに対する日本古来の伝統文化の温存という二重構造によって発達することとなる。当時の四つの演劇、即ち、能、狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎を見るに、その波を最も激しく受けたのは能狂言で、幕府はじめ諸大名そして京都朝廷からその生活を保証されていた能狂言の役者は、幕府の瓦解、諸大名の身分の変動によって一挙にその生活基盤を失い、存続の危機に直面した。これに対し、人形浄瑠璃は幕藩体制に依存せず民衆の中に生きてきており、なにより太夫、三味線、人形の名人達を大阪人は支持していたのである。歌舞伎も人形浄瑠璃と同じく町人の娯楽として根付いていたし、所謂「団菊左」と並べ称される役者の人気、関西劇壇では江戸時代以来の歌舞伎の色彩を色濃く残す役者達が元気であった。能を新政府の式楽(儀式に用いる楽)としたい岩倉具視は、天皇の母后英照皇太后の青山御所(現東宮御所)に能舞台を建て、明治11年7月、天覧能を催した。天皇はじめ皇太后、各宮家、三条実美、岩倉具視以下政府高官が参列した。これによって、能は「古典芸術」としての地位で今日まで存続している。

明治19年(1886)8月、初代内閣総理大臣伊藤博文の意向により末松謙澄が東京で「演劇改良会」を発足させた。会員は、井上馨、依田学海、福地源一郎、森有礼、渋沢栄一らが名を連ね、賛成者には、伊藤博文、大隈重信、安田善次郎、大倉喜八郎、西園寺公望らが顔を揃えたが、演劇人は一人も入っていなかった。皇室や公家の好む能よりも歌舞伎を好んだ伊藤の「能の二の舞はさせない」との政治的意思が働いたと見られる。改良の要点は次の三点である。第一に歌舞伎の舞台様式の改良(竹本、女形、花道、後見の廃止)、第二に脚本を文学的で高踏なものへの改良、第三に新劇場の建設であった。しかし結局、改良会のかかげた第一第二の改良は失敗に終わり、第三の新劇場建設は、渋沢、安田、大倉が中心になって進捗した。(明治22年11月、「仮称改良劇場」改め「歌舞伎座」として完成開業)そして「改良会」は事実上消滅した。

この時期に歌舞伎を後押ししたのが「天覧歌舞伎」の催行である。本来、時の外務大臣井上馨邸の茶室落成の席開きに、天皇が行幸になるという話から、「その夜の余興として歌舞

伎を天覧に入れる」となり、明治20年4月26日、團十郎の弁慶、左団次の富樫で「勸進帳」、団・菊の「高時」のほかに夕食後の追加が二番出て、御所帰幸は午後十一時過ぎとなった。二日目は、洋装の皇后はじめ各宮家の妃殿下、女官、各大臣夫人たちの女性一色。三日目は、各国公使、内外の貴顕華族が夫人同伴で観劇。そして、四日目は、緋の袴の英照皇太后が行啓になって、四日間の天覧歌舞伎は好評のうちに無事終了した。このことは一般民衆のものに過ぎなかった歌舞伎が社会全体から公認されたということの意味する。と同時に近代演劇の一ジャンルとしての「古典劇」としての様相を決定的にしたともいえる。これを機に若い演劇人による「新演劇」が登場して来るのである。

「壮士芝居」からフランスの演劇事情視察に単独渡航

明治25年(1892)、音二郎は「壮士芝居」に対する観客の感触を確かめるかのように東京市村座、京都南座、大阪浪花座など各地巡業を続けた。これらに刺激されて新しい俳優が生まれて来た。後の「新派」へ繋がる角藤定憲や伊井蓉峰らである。

明治26年(1893)、鳥越座(中村座が改名)で音二郎を座長とする一座が元旦を初日に翻案物などにて開幕予定のところ、音二郎はこれをすっぽかし、神戸から単身フランスへ渡航してしまった。演劇事情視察が目的であった。滞在は一カ月半の短い間であったが、新しい劇場の建設と劇団の改革という課題を持って帰国した。一方歌舞伎座開業で水を得た團十郎は「時代物」「活歴物」を組み合わせ好調であったが、この年9月「日向嶋の景清」を活歴風で演じたところ客は退屈で、結局不入りのため途中で千秋楽となっている。團十郎は「活歴物は骨ばかり折れて客は喜ばず、時代物は眼をむくだけでわっと受けて下さる」と嘆いたという。その後、古典復興を決意し、大時代演出に戻って好評を博した。

日清戦争と戦争劇ブーム

明治27年(1894)、日清戦争勃発。機を見るに敏感な音二郎は、早速東京浅草座で「壮絶快絶日清戦争」を上演。更に、朝鮮半島に渡り戦地状況を実見して「戦地見聞日記」を上演し、好評を博す。これを皮切りに怒涛のように戦争劇ブームがおきる。僅か一年足らずの間に東西両劇場で実に三十一公演を数えた。川上一座の六公演を含めて新演劇側の公演がほぼ好評で、歌舞伎役者側のそれは団菊をもってしても従来の義太夫狂言の「物語」と変わらぬ描写で、不評であったと伝わる。そしてこの年、音二郎は貞奴と結婚する。媒酌人は、郷土の先輩で伊藤博文の三羽鳥の一人金子堅太郎であった。

明治28年(1895)、戦争劇ブームの好不評で差を開けられた歌舞伎座の座主千葉勝五郎は、遂に川上一座の戦争劇を歌舞伎座にかける決心をした。そして5月、音二郎は、「威海衛陥落」をもって念願の歌舞伎座に初登場した。威海衛は中国の要塞で日清戦争の日本の勝利を決定的にした戦場である。4月に日清講和条約成立という戦勝気分の中で、この戦争劇は連日超満員の大入りで予定を延長し35日間の成功となった。ところが歌舞伎座を本拠としている團十郎は、嫉妬気分もあって、「あんな書生芝居で荒らされた舞台には出られねえ、舞台を張り替えろ」とゴネたという。

川上座完成と苦難の道

明治29年(1896)、一時の戦争劇ブームが去ると新演劇の各座各俳優は次への模索が始まった。先の「威海衛」で好演した高田実らが川上一座から脱退し、関西にいた喜多村緑郎らと「成美団」という一座を結成し、これも一座を抜けていた伊井蓉峰も独立して「伊井一座」を持っていた。これらが後の「新派」の誕生に繋がることとなる。6月、音二郎が建設を進めてきた劇場「川上座」が神田三崎町に完成した。7月、柿落しの公演こそ大当たりだったものの、脱退者の続出で弱体化した一座による経営は困難を極めた。

明治30年(1897)、市川團十郎が茅ヶ崎小和田に別荘「孤松庵」を建てる。

この年音二郎は手慣れた狂言をもって各地を巡業している。

明治31年(1898)、東海道線茅ヶ崎駅開業に伴い茅ヶ崎に別荘ブーム到来。

音二郎は、3月と8月の第五回および第六回の衆議院選挙に立候補し、いずれも落選している。一回目の落選後に川上座で「衆議院」と題する新作喜劇を上演し、川上の演じた議員に議場で「演劇保護案」をぶち上げさせている。8月、歌舞伎座の夏枯れ時の客寄せの意味もあってか、新演劇大合同公演があり、それぞれ別の一座にいた俳優が集まったが、さしたる成果は残せなかった。川上座建築のための高利の借金返済、二度の選挙のための負債などで遂に完成わずか二年で川上座を手放すことになり、歌舞伎座公演の不評など八方塞がりとなって、9月、妻貞奴と二人「南洋探検」と称して小舟で築地から逃げ出した。案の定、嵐に遭い、横須賀の海軍基地に保護された。さすがに「南洋探検」はあきらめ、夫妻は神戸を目指した。

初めての海外巡業

明治32年(1899)、音二郎夫妻は、正月6日神戸港に着き上陸。ここで座員を呼び寄せ、欧州へ行く予定を立て、その渡航資金集めのために神戸、京都、大阪と興行を続けた。京都で一座の評判を聞いた櫛引弓人というアメリカで成功した男の訪問を受け、アメリカ公演を勧められた。櫛引の資金援助の誘いもあって、予定の西回りの欧州を変更し、初めてのアメリカへ行くこととなった。一行は、子役二名を含む役者十三名に裏方六名の総勢十九名。4月30日、神戸を出帆し、横浜を経てハワイ経由でサンフランシスコに5月21日到着。櫛引が世話した現地弁護士で日本人マネージャー光瀬耕作の手配により最初の劇場で、音二郎の「楠正成」と貞奴の「娘道成寺」を上演。貞奴はこの時まで、本名の「貞」または芸者時代の源氏名「奴」と呼ばれていたが、ここで「川上貞奴」となった。一人の女優の誕生である。色白の、鼻筋の通った近代的な、日本人離れのした美貌と、養母に仕込まれた踊りの芸で瞬く間に人気者となった。

ところが、マネージャーの光瀬耕作が収益を持ち逃げするという事件が起き、一座は貧困のどん底に落ちた。劇場の衣裳道具は差し押さえられ、ホテルは追い出される、衣裳方が所持する時計を曲げて食事する有様であった。音二郎は、在留邦人の間を駆け巡り、その援助で一座安宿に宿泊でき、次の公演を可能にした。次のシアトルに向かうに当たり、一座の人数を減らすべく、子役として連れて来た音二郎の弟磯二郎(16歳)を某西洋人の学僕として、また貞奴の姪つる(11歳)を現地の画家の青木年雄という人に養女同様に預けたと

される。このつるが成人後、俳優早川雪舟の妻となった。

シアトルでは、これまでシスコで上演してきた歌舞伎の「鞘当」と「道成寺」を一つにして「芸者と武士」という外題で舞台に乗せた。外国人観客好みに音二郎が急遽作劇したもので、以後これが各地で評判となった。タコマから大陸横断鉄道にてシカゴへ。ここでかつての「オッペケペ」の姿で太鼓をたたいて町廻り宣伝をしたため劇場は大入り満員となった。また現地の興行主と契約、アメリカ各地を廻ることになった。

ボストンに入ったのは12月で、ここで悲劇が起きる。立女形の丸山が鉛毒でボストン病院に入院するも死亡、音二郎も盲腸炎手術で年末から年明けまで約三週間入院する。この間貞奴が座長、藤川浅二郎が代役を務める。

明治33年(1900)、年明けて1月同じ立女形の三上が入院、一行がワシントンに向かった後死亡した。三上は立女形で唯一英語のできる座員であり、通訳はすべて彼がしており、大きな痛手であった。音二郎の入った劇場の隣にイギリスの名優ヘンリー・アービングが「ベニスの商人」を上演していた。音二郎は、これを見た翌日早速日本語の翻案劇を作り、「人肉質入裁判」と題して彼らに見せ驚嘆させた。ワシントン駐在の日本公使小村寿太郎は、一座の評判を聞いて、自らボストンへ赴き舞台を見た。大いに感動した小村は、ワシントンに到着した一座を公邸に招き、時の大統領マッキンリー夫妻はじめ各大臣、学者、文学者、美術家などを招待して、夜会の後、仮設の舞台で「忠臣」「道成寺」そして「曾我兄弟」を上演させた。「曾我」では、五郎にハラキリを演じるよう注文したとある。ニューヨークでは、これまでの演目のほかに「人肉質入裁判」を「才六」と改題して上演。シャイロックの翻案である。いよいよ大西洋を横断してイギリスへ向かう。リバプール港に着き直ちにロンドンへ。手慣れた「忠臣」「芸者と武士」で幕を開けると、ここでも貞奴の踊りが絶賛された。そして名誉なことに、ヴィクトリア女王の後継ウェールズ皇太子(後のエドワード七世)上覧のもと演じている。場所はバッキンガム宮殿とも。いよいよ今巡業最後のパリである。パリは万国博覧会の真っ最中であった。先ず栗野慎一郎駐仏日本公使から公使館での夜会に招待され、「芸者と武士」を演じる。その後は、パリで活躍のアメリカ人女性舞踊家ロイ・フラーの劇場に出演することとなる。場所はセーヌ川右岸、万博会場の目抜き通りであった。当初の出し物は「袈裟」と「芸者と武士」であったが、あまり入りがよくなかった。ロイ・フラーは考えた末、「袈裟」にハラキリを加えるよう音二郎に注文した。「袈裟」は、有名な遠藤武者盛遠の物語で、誤って袈裟御前を殺した盛遠は出家して文覚上人になる。ハラを切る訳ではない。抵抗する音二郎を説得したのは、ロイ・フラーから懇願された栗野公使だった。やむなく承知した音二郎に喜んだロイ・フラーは、劇場の外に「本日ハラキリあり」という看板を出したら忽ち満員になったという。マダム貞奴は、パリ中の人気者となり、ピカソ、ジイド、ロダンらも観劇。ロダンは貞奴に魅了され彼女の彫刻を作りたいと申し出たが、彼女はロダンの名声を知らず断ったという逸話あり。8月、ルーペ大統領のエリゼ宮の園遊会に招かれ、貞奴が「道成寺」を踊る。公演日数123日、延べ上演回数369回に及んだ。フランス政府よりオフィシェ・ド・アカデミー勲章を授与されてパリを後にした。ロンドン経由、スエズ廻りで帰国の途に就く。

再度の海外巡業(欧州)

明治34年(1901)、1月1日、欧米巡業を終え神戸港に帰着。一座は、有馬温泉で休養した後、「洋行中の悲劇」と題して、この洋行中に病死した二人の座員の物語を演じ、4月、再び欧州巡業に向かった。ロイ・フラーとの契約の消化を含めて、東はロシアのモスクワから西はポルトガルのリスボンまで精力的に廻っている。

茅ヶ崎に別荘建設と團十郎の死

明治35年(1902)、8月、欧州巡業から帰国。この年、音二郎・貞奴は、崇拜する九代目團十郎を慕って、茅ヶ崎に土地を購入し別荘を建てた。伊藤博文の命名で「萬松園」と称す。明治36年(1903)、これよりシェークスピアの「オセロ」「ヴェニスの商人」「ハムレット」など翻訳劇を積極的に上演する。そしてこれらを「正劇」と名付けた。「オセロ」では貞奴が日本で初めて女優として舞台に立った。また、茅ヶ崎駅近くの仮設舞台で一座は「ヴェニスの商人」を上演している。9月、團十郎が別荘「孤松庵」で死去。音二郎は、通夜の客の為に茅ヶ崎駅から「孤松庵」まで要所に街灯を設けた。また、東京での葬儀では伊藤博文からの弔辞を代読した。

日露戦争勃発

明治37年(1904)、2月10日、日露戦争勃発。同時に東西各座、新旧両派ともに日清戦争時がよみがえり戦争劇上演に突入した。音二郎は、大阪朝日座で「ベニスの商人」公演中であったが、千秋楽を迎えると、伊藤博文に従い一座の藤沢らを連れて朝鮮仁川に渡り、戦況視察。帰国後東京本郷座で「戦況報告演劇」を上演。各座は競ったが、十年前のブームとは様相が変わっていた。演劇はもはやメディアとしての機能を失い、それは活動写真の台頭に持って行かれていたのである。

音二郎体調不良で俳優引退

明治38年(1905)、4月、巡業先の高松で、ボストンでの盲腸炎の手術のあとが悪化して倒れ、岡山の病院に入院。

明治39年(1906)、6月、大阪中座の公演中に再び倒れて入院。再度の病に音二郎は、遂に、俳優をやめ、制作・脚本に専念を決意する。

明治40年(1907)、3月、引退興行で俳優業の幕を下ろし、7月、貞奴とともに最後の洋行となるフランスに向かう。念願の新しい劇場建築のための調査、制作者として舞台装置・照明の研究などが目的であった。

明治41年(1908)、東京木挽町に事務所開設。さらに女優養成所を開設し貞奴を所長に後進の女優を育成。

明治42年(1909)、伊藤博文ハルピンにて朝鮮民族主義活動家に暗殺される。

帝国座完成と音二郎の死

明治43年(1910)、大阪北浜に音二郎総仕上げの劇場「帝国座」完成。

明治44年(1911)、イプセンの「人民の敵」上演準備中に発病入院(急性腹膜炎)。重体に陥った音二郎を貞奴の希望で帝国座に移し、11月11日、音二郎は舞台上で息を引き取った。享年47歳。大阪天王寺の一心寺にて新派合同葬、故郷博多の承天寺に埋葬された。

音二郎死後の貞奴

明治45年(1912)、貞奴らは、帝国座にて音二郎の追善興行を実施した。その後も音二郎の遺志を継ぎ「トスカ」「サロメ」など公演活動が続けるも、小山内薫の「自由劇場」、島村抱月・松井須磨子の「文芸協会」の登場で女優引退を決心する。

大正6年(1917)、東京明治座で引退興行「アイダ」など上演。

大正7年(1918)、芸者時代に付き合っていた福澤桃介(旧姓岩崎、福澤諭吉の次女との政略結婚で引き裂かれ、「電力王」の異名を持つ実業家になっている)と再会し、名古屋で一時同居。桃介の大事業大井ダム建設に献身協力する。

昭和8年(1933)、岐阜県各務原市鵜沼に貞照寺と別荘「萬松園」を建てる。

昭和21年(1946)、12月7日、疎開先の熱海の別荘にて肝臓がんで死去。

享年75歳。各務原の貞照寺に葬られる。

おわりに

“音貞”二人が近代日本演劇史に残した功績は大きなものがある。「新派の祖」というより「近代日本演劇の祖」というに相応しい。茅ヶ崎では、近年、毎年秋には、音貞を顕彰して「オッペケペー祭」を催行し、地元「湘南座」ほかの有志による「オセロ」や「ヴェニス商人」などの翻案劇を別荘の跡地である高砂緑地で野外劇として上演されるようになった。